

事例②【児童生徒の実態に寄り添った支援】

1 設置状況

設置状況

学校種	小学校	
開室時間	8:00～15:25	
校内教育支援センターの職員について 専属職員数	2人	

設置する際に工夫した点

- ・センターには、現在8名の児童が通っているため、一人一人の机を設置している。集中して学習や個人活動ができるように、一人一人の机の間隔を空けて設置し、グループ活動では、机を寄せて仲間と共に活動を楽しめるようにしている。大きな机やパーテーションも設置してある。
- ・ロッカーに、個人の持ち物が片付けやすいように、広いスペースを使用できるようにしてある。
- ・掲示板には、一人一人の折り紙作品などを掲示し、頑張りを認める場として活用している。

2 実践事例

事例	毎日、校内教育支援センターに、帽子とカバンを置きに来るようになった1年生のAさん
支援内容	1年生の1学期より学校を休みがちとなり、2学期より校内教育支援センターを利用するようになった。通室し始めたころは、情緒が不安定であった。暴言や大声を出すことが多く見られ、大人に対しても蹴るなどの攻撃行動をとることがあった。自分の思い通りにいかないことがあると、瞬時に攻撃的になる特性を持ち合わせているため、本人と保護者の意向を踏まえながら、一つ一つの課題に向き合い助言したり、上級生の姿のよさに気付かせたりして、乗り越えられるように支援した。
児童の姿の変容	同じ部屋にいる上級生が穏やかに仲良くゲームや学習などの活動をしているのを見て、一緒に遊んだり学習したりするようになった。ゲームなどの中で、ルールを守ることが大事だと感じ、センターの仲間のように静かに活動ができるようになった。そして、1日、数時間ずつ在籍教室での学習ができるようになっていった。今は、朝と帰りにセンターに姿を見せに来るだけになった。
児童(保護者)の声	「在籍学級の勉強は、みんな一緒だから楽しい。2年生は、初めての仲間だからセンターにもまた来たい。」と、本人は言っている。在籍学級の仲間との学習に楽しみが増えてきているが、まだ少しの不安があり、センターがよりどころになっているようだ。

3 成果と課題

成果	・個々の状況を踏まえ、保護者の意向に沿った支援ができた。 ・児童が興味をもてそうなカードゲームやブロックなどを準備し、楽しみながら交流や相談を進めることができた。
課題	・センターの生活に楽しみを見だし、登校できるようになったのはよいが、児童によっては学習支援を拒むことや、在籍学級へ行けないことがある。

4 今後の方針

・困っている児童に気付き、教師からアプローチすることを続ける。 ・本人の状況に合わせた個別課題を提示するなど、適切な学習支援をする。
